

第6回 環境基本計画検討委員会 会議結果報告

日 時	平成 24 年 5 月 28 日 (月) 10 : 00 ~ 12 : 00
場 所	野洲市役所 本館 3 階 第 1 委員会室
出席者	委員 11 名、事務局 4 名、傍聴者 9 名

1. あいさつ

野玉 環境課長

北出 委員長

2. 報告・確認

- 第 5 回検討委員会の報告内容確認 … 異議なし

3. 議題

- 各主体との連携方法について
※ワークショップの振り返りと意見抽出

<共通事項>

- ・ 情報を共有する場づくり
- ・ 環境に関する基礎データの把握

<学校>

- ・ 現場の負担が減る仕組みづくり

(小島委員)

- 野洲川河辺林で北野小学校を対象にした観察会を行う。カブトムシの幼虫がたくさんいて、下見に先生たちを連れて行ったら興奮して是非やりたいとなった。

(永橋副委員長)

- 先生方がやりたくても忙しくてできないことを、こちらから働きかけて協力していくという形で展開できるのではないか。
- ・ 小学 3・4 年生の社会科副読本との連携
- ・ 教育委員会と交流できる場づくり

<企業>

- ・ 企業の環境取り組みを市民に知らせるパンフづくり

(永橋副委員長)

- 企業の方々がとても素敵なことをしていることを、他の市民に伝えられるようにすればもっと市民と企業の連携が進むだろう。

- ・ 企業との市民が交流する場づくり

(北出委員長)

- 今年の推進会議の総会で村田製作所に自社の取り組みを発表してもらった。私たちも市民も知ることができたし、企業にとっても努力を知ってもらえたわけだからいい機会となった。

(環境審議会：江崎委員)

- 湖南・甲賀環境協会でも、既に企業と行政の情報交流は行っている。
- また企業としても市民にPRをしたいので、行政から働きかけがあれば参加するだろう。

(辻村委員)

- 県のグリーン購入ネットワークに野洲市の企業も参加されている。こうした既存のつながりを活用して、企業の取り組み情報を集約できるのではないかな。

(北出委員長)

- 企業が行っているおもしろい事例として、村田製作所から地産地消の取り組みとして昼休みに社員食堂前でフナズシを売りに来て欲しいという依頼があった。

(環境審議会：江崎委員)

- 全国規模の企業であれば、そういった取り組みも行いやすい。
- そうした取り組みを紹介していくことで、地域で何社か合同で実施するなどの広がりが出てくるのではないかな。

- ・ コーディネーターとアクセス方法の見える化

(辻村委員)

- グリーン購入ネットワークの環境学習を推進しようという会議の場でも、コーディネーターが必要だという意見が出ていた。
- 仮に交流できる場ができたとしても、どこへどういう風に話を持っていけばいいのか、そういった手順と段取りを誰にでも分かるように仕組みとして作っておく必要がある。

<自治会>

- ・ 自治会内に環境推進委員を位置づけ、連携体制を構築する。

(北出委員長)

- 前回から出ていた、自治会に環境推進委員を置くという意見に関して、小規模の自治会に聞いてみたところ、「今でもいっぱい、市に減らして欲しいと要望している。」と言われていた。

(河本委員)

- 自治会単独ではやはり限界がある。
- 例えば、昔ながらの自治会の境界というのは川沿いであったりすることが多くて、その草刈りやごみ拾いが問題になる。県の管理であっても、伝統的に複数の自治会が共同して掃除をするという行事が残っている。

(小島委員)

- 旧集落でも三大字というものがあって、古文書の虫干しなどの作業を共同で行っている。そもそもは水争いがあった時代からそういった営みが続いていたが、だんだんと希薄になってきている。

(永橋副委員長)

- 自治会同士のコラボレーションというか、環境推進委員も3つか4つくらいのネットワークの中で誰かということも可能ではないか。
- それを行政の委員として位置付けることで、行政からのサポートや研修体制を作っていく。
- 推進委員を対象とした研修会を実施
- 研修会の講師となれる人材育成
- ・ 自治会の環境取り組みをPRできる仕組みづくり

<各種団体>

- ・ 市民活動データブックの活用

(河本委員)

- データブックを作った際に、約9割の団体にはヒアリングをして、市民活動促進計画を作成した。「やすまる広場」もこの計画に基づき実施している。
- ・ 既存の活動をつなぐコーディネート（やすまる広場などとの連携）

(永橋副委員長)

- いろいろな団体があり、これをいきなり統括することは難しいが、テーマごとにネットワーク化したり、コラボレートしたりすることはできるのではないか。

(辻村委員)

- コーディネートが大事。義務ではなく「楽しかった、もっとやろう！」というような情報発信をお互いが共有できると良いのではないか。

(環境審議会：熱田委員)

- 団体では、それぞれで様々な活動を行っているので、活動の弱い自治会や企業のバックアップを行政で行うことが必要ではないか。

(環境審議会：近藤委員)

- 肩書きや組織名だけでネットワークに組み込むと全体のエネルギーが落ちてしまう。それよりは、個人の顔が見えるネットワークづくりが大事だろう。

4. その他

○ 次回の連絡

ワークショップ

5月15日(火) 13時30分～ 野洲文化ホール 小ホール
検討委員会

5月28日(月) 10時～ 野洲市役所 本館3階 第1委員会室